

2008 お買い物で国際協力

東洋大学国際地域学科

推薦者

大石 真夢さん(2年)

バングラデシ
ノクシカタ

ノクシカタはバングラデシユの伝統的な刺繍しじゆです。もともと、農村では着古されたサリーなどを重ね合わせ、赤ちゃんのおくるみ、小物、布団などにリサイクルしてしました。時間をかけて縫われる細

細やかな伝統的刺繍

流行取り入れたデザイン

やかな刺繍の技術が、母から娘に受け継がれていたのです。それがNGOによって商品化されたのが、ノクシカタです。

今回紹介する象の小銭入れ(700円)を作っているのはカルポリーベンガル語で「村の仕事場」という団体です。首都ダッカにお店を構えるカルポリーは、日本の青年海外協力隊とバングラデシユの農村開発局の協力で1989年に設立されました。農村に住む人々によってつくられた手工芸品を販売して経済開発を促し、特に女性たちの生

活改善・自立をサポートしています。フェアトレード団体の多くは輸出に頼りがちになつて売り上げのほとんどが海外というところもあります。が、カルポリーの場合は国内での売り上げがなんと約9割にもなります。カルポリーがマーケティング手法、ディスプレイ、デザイン開発に力を入れている成果です。特にデザイン開発では、顧客のニーズに応えるものを製作するために、海外のバイヤーからの流行情報を参考にすることもあつて、紹介している象のデザインも協力隊員から出たアイデアを取り入れたものです。象はバングラデシユの自然には「当たり前」の存在であると同時に、神のつかいであり、家族に幸せをもたらすと言われています。

ノクシカタで使われるモチーフには、このほかに、天地を結びあらゆる生命が寄り集つる楽園、生命の輪廻を象徴する「生命の樹」などさまざまな意味や願いがこめられています。ノクシカタには女性たちの愛情と思いが詰まっています。

この夏、私はバングラデシユを訪問する予定です。この記事を書くことで、少し身近になつたノクシカタにも実際に触れてみたいと思つています。

▼東洋大生によるフェアトレード商品販売「お買い物で国際協力」は8月19日午後1時から館林つつじの里ショッピングセンターいこいの広場で開始。24日まで(初日以外は午前10時から午後9時)。



象の小銭入れとブックカバーを持つ大石さん